

令和7年4月30日
独立行政法人水資源機構
木津川ダム総合管理所

川の水位上昇にご注意ください ～ 室生ダムフラッシュ放流で河床をリフレッシュ～

独立行政法人水資源機構木津川ダム総合管理所が管理する室生ダムでは、梅雨や台風に備えて貯水位を下げています。この水位低下操作を利用して、次のとおりダム下流の河川環境改善のための放流（フラッシュ放流）を実施します。

なお、室生ダムのフラッシュ放流では、ゲート点検を兼ねて、洪水吐きゲート（堤頂に設置したゲート）からの放流を行う予定としています。

令和7年5月14日（水）

放流（増量）開始8：30 ～ 放流（増量）終了14：00（予定）

今回実施するフラッシュ放流は、ダムから放流する水を一時的に増やし、石などに付着した泥や藻類等を剥離させるなど河床をリフレッシュすることで、河川に生息する魚などの生物にとって良好な環境へと改善を目指す取り組みです。

ダム下流の河川では、ダムのフラッシュ放流により徐々に水位が上昇しますので、河川を利用される場合は十分注意してください。

当日は各ダムからの放流開始に合わせた警報（放送、サイレン）を行うとともに、河川巡視を実施します。

取材を希望される方、また当日の状況写真を希望される場合は下記アドレスにて事前にお申込みください。

メール宛先：jwa_kizugawa@water.go.jp

記載事項：1. 報道機関名、2. お名前、3. 連絡先電話番号

発表記者クラブ：三重県政記者クラブ
名張市政記者クラブ
桜井市政記者クラブ
檀原記者クラブ

お問合わせ先：木津川ダム総合管理所
管理課長 常松（つねまつ）、総務課長 西岡（にしおか）
電話：0595（64）8961（代）

室生ダムの 下流河川環境改善を目的としたフラッシュ放流について

1. 目的

フラッシュ放流は、ダムから流下させる水を一時的に増やすことにより、下流河川内の攪乱を起こし、石などに付着した泥を流すものです。また、藻類等を剥離させ藻類の再生を促します。これらにより、河床をリフレッシュし、河川に生息する魚などの生物にとって良好な環境への改善を目的とした取り組みです。また、フラッシュ放流と同時に、ダム上流に堆積した土砂の一部をダム下流に置き、流すことで、藻類の剥離効果を向上させ、より良好な環境への改善を目指します。

○ 過去のフラッシュ放流の実績

- ・ 室生ダム 平成19年度～（16回実施）

フラッシュ放流に合わせて、下流河川の流れや水質等について調査し、今後のダム下流河川環境に配慮したダム管理を行うための基礎資料を収集します。

2. フラッシュ放流の概要

① ダム管理の現況

室生ダムでは、洪水期が始まる6月16日までに、梅雨や台風に備えて洪水調節の容量を確保するため、洪水貯留準備水位まで貯水位を低下させる予定としています。今回のフラッシュ放流は、この水位低下操作の一環として行います。

また、室生ダムにおいては、洪水吐きゲート設備の点検をあわせて実施することで、洪水吐きゲートを利用したフラッシュ放流を実施する予定です。

② フラッシュ放流の実施予定日時

日時：令和7年5月14日（水）8時30分～16時00分（予定）

最大放流量：ダムからの放流量を徐々に増やし、最大放流量は約2時間継続させます。

最大毎秒約30立方メートル

放流量が最大になる時間 10時30分から12時30分頃

※フラッシュ放流予定日前後の気象条件等によっては、フラッシュ放流を中止する場合があります。

※青蓮寺ダム・比奈知ダムでも実施予定でしたが、現在貯水位が低下しており、今年度は実施しません。

③ 室生ダムの洪水吐きゲートからの放流（右写真）

洪水調節時に使用する堤頂に設置した洪水吐きゲートの点検放流を兼ねたフラッシュ放流を行います。



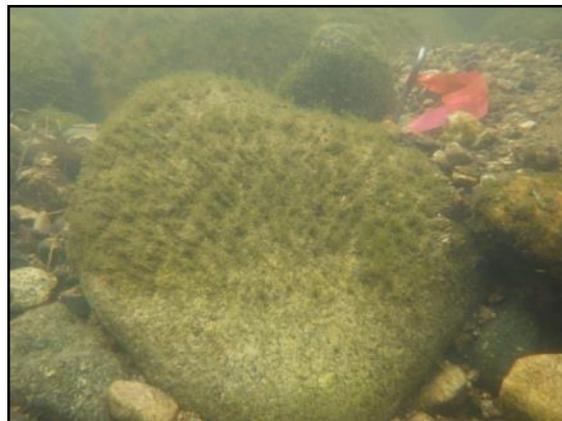
④ フラッシュ放流で期待する効果

フラッシュ放流を実施する前は、石の表面が藻類等の付着物に覆われていますが、フラッシュ放流後は、付着物が流され、石の表面が明瞭に確認できます。

このように河川環境の改善効果を期待しています。



放流前

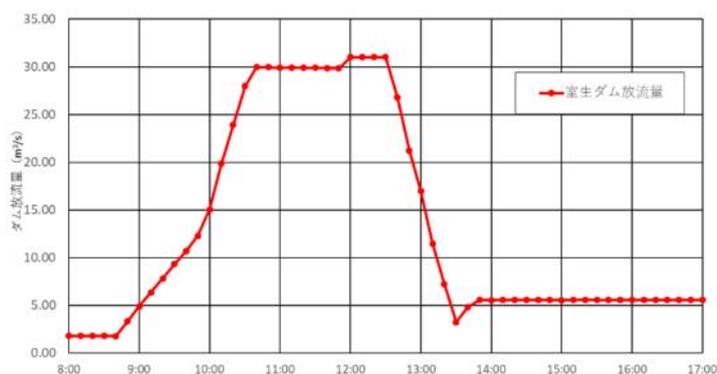


放流後

3. ダム下流河川の水位の上昇予測について

今回のフラッシュ放流によって、ダム下流の名張川では、水位の上昇が予想されますので、河川の利用に際してはご注意ください。なお、フラッシュ放流時は放流開始前に放流警報（放送、サイレンを鳴らします）・河川巡視を行い、河川利用者の方に河川から出ていただくことをお願いする場合がありますので、ご理解・ご協力をお願いいたします。

- ・名張川の宇陀川合流点（名張大橋付近）：最大で約0.9m上昇（14時頃）
- ・宇陀川（赤目口橋付近）：最大で約0.7m上昇（13時30分頃）



室生ダムの放流計画

4. 警報等の実施について

当日は、8時30分頃からダムからの放流量を徐々に増加させるため、安全面に配慮し放流警報（放送、サイレン又はサイレン疑似音を鳴らします。）を行います。

室生ダムの概要

■ダムの諸元

ダム型式 : 重力式コンクリートダム
堤体積 : 約153千m³
堤高 : 63.5m
堤頂長 : 175.0m
湛水面積 : 1.05km²
流域面積 : 169km²
管理開始 : 昭和49年4月

■ダムの目的

1. 洪水調節

下流河川での洪水被害を軽減することを目的に、ダム地点における計画高水流量730m³/sのうち430m³/sをダムに貯留し、300m³/sをダムから放流する。

2. 流水の正常な機能の維持

下流河川の既得用水の補給等、流水の正常な機能の維持を図る。

3. 水道用水

水道用水として大和平野の各都市に、貯水池から初瀬水路を経て、最大1.6m³/sを供給する。



■貯水池容量配分図

